

～洛西からの一読～

今回のテーマは「旅する主人公」

旅をする時って誰と一緒に行くかは、とても大事ですよ。皆さんが旅をするとしたらどんな相棒がいいですか？今回紹介するお話は、相棒が猫だったり、言葉が話せる二輪車だったり。人ではないものを相棒に主人公たちはどんな旅を続けるのか、どのように心を通わせているのか……。じっくり味わってみてください。



旅猫リポート

有川 浩/著 講談社

銀色ワゴンのボンネットがお気に入りの野良猫は、大の猫好きのサトルと出会いました。その野良猫が交通事故で大怪我を負った時、銀色ワゴンの所まで行けば助けてもらえると思いを振り絞ってたどり着きます。サトルに助けてもらった野良猫は、ナナと名付けられて飼い猫の生活が始まりました。それから5年、サトルとナナは楽しく暮らしていたのです。

ある日サトルとナナは、銀色ワゴンに乗って旅をすることになりました。どうやら新しい飼い主とナナとのお見合いの旅のようです。お見合いはサトルの小学校時代の友人から始められました。なぜかお見合いは不成立、なかなかうまくいきません。でも帰り道のサトルとナナは何だか嬉しそうです……。はじめて海という大自然を目の当たりにして怖がるナナを優しく見つめているサトル。二人は、思い出を一つ一つ積み重ねながら旅を続けていきます。最後の旅の行き先は？サトルとの思い出深い旅を猫リポートとしてお届けします。



キノの旅 the Beautiful World

時雨沢 恵一/著 KADOKAWA/電撃文庫

旅人キノは相棒の二輪車エルメスと様々な国を訪れています。滞在期間は三日と決め、その国の文化やしきたりを体験していきます。ある時、整然と整備され安全で清潔な国を訪れます。機械で制御されたその国は快適で豊かな国ですが、町や居住エリアに人の姿が見当たらないのです。ようやく一人の男性に出会い、この国がなぜこんなに静かで人の交流がないのかを知ることになりました。この国では相手の思っていることがわかるそうです。「他人の痛みがわかればその人に優しくできる」という思いだったのですが、すべてがわかるから人と会うことが恐怖になってしまったのです。

この作品は「人の痛みがわかる国」からはじまる連作短編形式になっています。次々に訪れる国でキノの身体能力のすごさや銃の腕前が描かれています。訪れる国々でキノは何を体験し何をその国に残していくのか、そして読者は何を読み取るのか、それぞれの感性を豊かにしてこの本と旅をしてみてください。